

世界のソーシャル・ビジネス

アジア編
日本

口ウソクなどを代用し火事や健康被害が起きていたが、ソネングラスは安全面でも安心できる④ 蓋のソーラーモジュールで充電する

(写真提供: Sonnenglas)

南ア産のソーラーランプ
雇用と電気を生み出す

「ソネングラス」は、世界最大級のネット通販サイト「アマゾン」のドイツ市場で、最も売られている照明だ。太陽光を利用したガラス瓶のLEDランプで、南アフリカ共和国で開発、製造されている。機械化できる作業をあえて手作業にこだわり、現地の若者の雇用を生み出すだけでなく、不安定な電力供給解消にもひと役買っている。

(松島 香織)

南アフリカ共和国は、アフリカ諸国で唯一のG20メンバー国であり、豊富に産出される石炭を利用した工業国だが、2008年の世界金融危機後、経済は低迷。インフレ状態が続く、失業は大きな社会問題となった。

一方で、海外資本の流入や国内消費が活発化。急激な電力需要の増加に対応できず、2007年以降、供給不足が深刻化している。

ソネングラス社のステファーン・ノイビッツCEOはドイツ人だ。南アを旅行した時に、仕事のない若者が道にたむろしている姿を見たり、電力不足が起きていることを体験したりした。その光景がずっと頭をはなれず、帰国後も若者

の雇用を生み出し、電力不足を解消するにはどうしたら良いかを考えたという。

ヨハネスブルグにある工場には、平均年齢25歳の若者70人が働いている。社会保険や年金などの福利厚生が受けられ、給与は南アの平均年収よりも高い水準にある。

2014年には「ソネングラス基金」を設立し、南アのスタートアップへスキルアップや職業訓練の支援をしている。

美しさにもこだわり

ソネングラスの仕組みは至ってシンプルだ。高さ約18cmのガラスのびんのふたの裏側にはソーラーチャージが可能なLEDライトが付いている。季節や天気によって6時間から12時間、太陽光を当てて充電すると、最大12時間連続で点灯することができる。

ガラスは、南アのガラスメーカーのリサイクル品を利用。ワイヤー部分も100%リサイクル品を使用し、部品の

南アフリカ共和国では、ソネングラスが実用的な照明として役立っている



はフェアで生産過程を透明化しているメーカーから購入しているという。

ノイビッツCEOは写真家でもあり、美しさにもこだわった。ガラスびんに、貝殻などを入れてインテリアとしても楽しむことができる。

ソネングラスは、欧州ですでに200万個を売り上げた。アートの性がありエシカルなソネングラスは、実用的な照明というだけでなく、その美しさから生活の豊かさにつながる。

日本では自社サイトやAmazonで販売しているほか、実店舗での販売も進めていく予定だ。